

【概要版】

# 第2期沖縄空手振興ビジョン ロードマップ (2023年度～2027年度)



沖縄県



## 1. 第2期ロードマップについて

- 沖縄空手振興ビジョン(2018年3月策定)で定めた「保存・継承」、「普及・啓発」、「振興・発展」の各分野における基本理念のもと、20年後のめざすべき将来像の実現に向けて、「第1期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」を策定し、2018年度からの5年間、各種施策の推進に取り組んできた。
- 第1期ロードマップ期間終了後の2023年度からは、「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ(以下「第2期ロードマップ」をいう。)を策定し、沖縄空手振興ビジョンで定めた3つの将来像の実現に向けて、関係機関が密な連携を図り認識を共有しながら、各種施策を計画的かつ能率的に推進する。

## 2. 第2期ロードマップの期間

- 対象期間は、2023年度から2027年度までの5年間

### 沖縄空手振興 ビジョン

(2018年度～2037年度)

### 第2期沖縄空手振興 ビジョンロードマップ

(2023年度～2027年度)

#### <3つの将来像>

- 【保存・継承】 空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代に受け継がれている。
- 【普及・啓発】 空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策展開により世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識
- 【振興・発展】 空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。

- 13の主要施策と34の施策項目(再掲を除く)で構成
- 施策毎に年度別の具体的な取組内容を示し、成果目標を設定
- PDCA等による進捗管理を実施

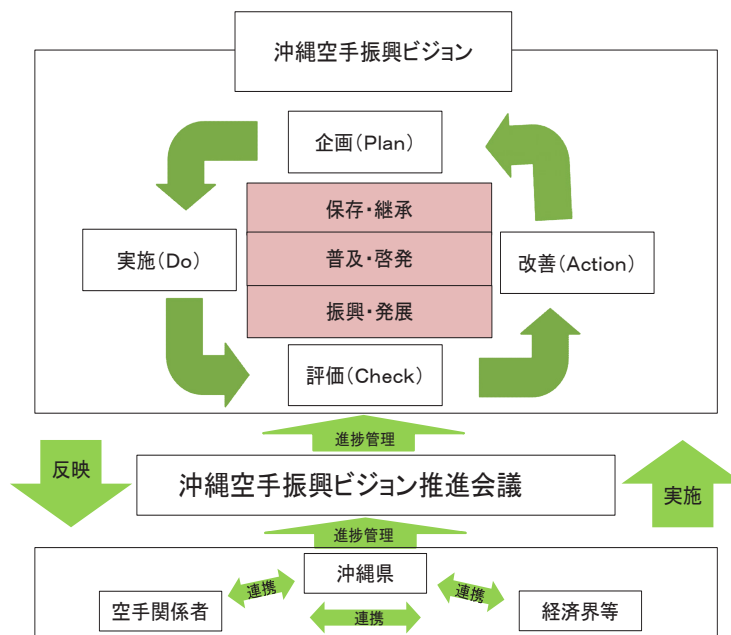
### 3. 成果指標

ビジョンを実現するための軸となる4つの成果指標を設定

項目	現状	1年後 (令和5年度)	2年後 (令和6年度)	3年後 (令和7年度)	4年後 (令和8年度)	5年後 (令和9年度)
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%
県内道場数	364道場 (令和3年度)	367道場	370道場	373道場	376道場	379道場
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人

### 4. 進捗管理

沖縄県、空手関係団体、経済界等で構成する推進会議を設置し、PDCAサイクルにより、ロードマップの確実かつ効果的な推進を図る。



## 5. 基本戦略

7つの基本戦略を立て、施策展開の方向性を示すことにより、効率的・効果的に取組を推進する。

### 【1】道場の運営基盤強化

沖縄空手の保存・継承を担う道場の運営基盤の強化に向けては、道場の現状と課題の適切な把握のもと、門下生の増加、後継者等の人材育成など、総合的な道場支援策を検討する。

また、道場支援については、振興会が中心的な役割を担う取組が多いことから、同会の組織運営基盤の強化を図り、同会を通じた県内道場への支援策を検討し実施する体制を構築する。

### 【2】後継者等の育成

後継者等の育成に資する施策取組を着実に進めることとし、伝統的で適切な指導方法を検討し、指導体系書等として取りまとめることで、指導体制の構築とともに、国内外の空手愛好家が沖縄空手に直に触れ、正しい鍛錬方法等を学ぶことのできる機会を創出する。

流派・道場間の連携促進等を通して伝統の継承に資する取組を推進する。また、公認段位制度については、各流派、団体、道場の現状を尊重しながら、制度創設を慎重に検討する。

### 【3】文化的価値の深化

沖縄空手の保存・継承とともに、文化的価値の理解を更に深化させるため、県指定無形文化財保持者の追加認定、ユネスコ無形文化遺産登録の実現に必要な提案内容の検討及び提案に関わる歴史・文化的価値等に関する学術研究を着実に進める。

博物館相当施設として指定されている沖縄空手会館展示施設において学芸員を配置し、資料の収集・分析、企画展及び巡回展等の活動の充実、来館者サービスの向上を図る。また、高等教育機関と連携した研究活動の取組を推進する。

これらにより、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図る。また、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた気運醸成のための情報発信強化とともに、幅広い関係者を巻き込んだ訴求力の高い方策を検討し、登録に向けた取組を段階的に進める。

### 【4】「空手発祥の地・沖縄」の発信強化

「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上や沖縄空手の魅力発信のため、沖縄空手世界大会を定期開催するとともに、国内外の空手愛好家及び県民を対象とした沖縄空手の演武披露及び沖縄空手セミナー等を実施する。

また、武道教育について、空手道研究指定校の指定を継続して行うとともに、県内小・中・高等学校及び保育園等への沖縄空手の指導者派遣を推進するなど、行政、空手団体、学校等の関係機関との連携のもと、広く子どもや県民が空手に触れることのできる環境作りを推進し、県内での沖縄空手の普及・啓発を図る。

### 【5】競技と伝統の発展

競技空手と伝統空手の発展に向けては、引き続き、競技空手と伝統空手を世界の空手愛好家を牽引する両輪として発展させるため、沖縄空手世界大会の定期開催に取り組むとともに、競技大会等のスポーツコンベンションの誘致・開催に取り組む。

### 【6】振興会の更なる基盤強化

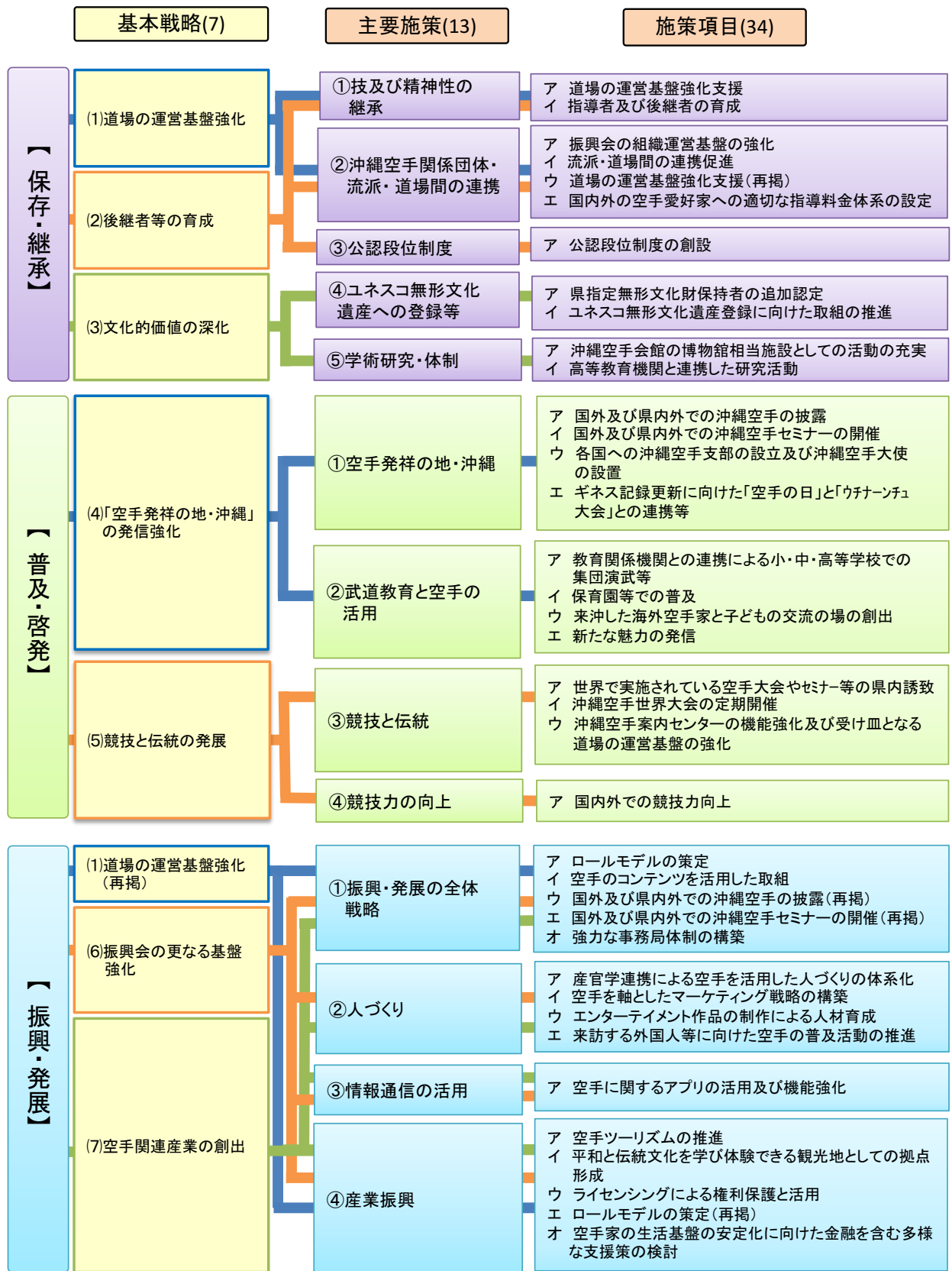
振興会において、自主事業や行政機関等からの受託事業等に取り組むことで 沖縄伝統空手道振興会の財政基盤と事務局体制の強化を図り、沖縄空手の保存・継承等に資する取組の推進、沖縄空手案内センターの機能強化、沖縄空手に関連する産業振興の仕組みづくりに取り組む。

### 【7】空手関連産業の創出

沖縄空手に関連する産業振興について、空手関係者をはじめ、観光業、商工業など様々な分野の関係者と連携して検討を進め、相乗効果を発揮できる取組を推進する。空手ツーリズムの推進や、沖縄空手会館近隣にあるおきなわ工芸の杜、海軍壕公園と連携して平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成に取り組む。

また、振興会においては、県、関係団体と調整しながらライセンス(商標)を取得しその活用を検討する。

# 6. 基本戦略と施策体系図





〈将来像〉空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策展開により世界の空手愛好家が「空手発祥の地・沖縄」を認識  
 〈第2期の基本戦略〉【4】「空手発祥の地・沖縄」の発信強化 【5】競技と伝統の発展

①空手発祥の地・沖縄

- ア 国内外及び県内外での沖縄空手の披露
  - イベントでの沖縄の文化資源と連携した演武披露、SNSでの発信等
- イ 国内外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催
  - 国内外及び県内外で空手家向けセミナー、県民を対象としたセミナー等
- ウ 各国への沖縄空手支部の設立及び沖縄空手大使の設置
- エ キネズ記録更新に向けた「空手の日」と「ウチナーンチュ大会」との連携等

②武道教育と空手の活用

- ア 教育関係機関との連携による小・中・高等学校での集団演武等
  - 学校現場における普及、道場リストの作成・配付
- イ 保育園等での普及
  - 保育園における普及、園児向け型の創作、道場リストの作成・配付
- ウ 来沖した海外空手家と子どもとの交流の場の創出
- エ 新たな魅力の発信
  - 全県的な普及取組の検討（健康体操等）、生涯学習講座等

③競技と伝統

- ア 世界で実施されている空手大会やセミナー等の県内誘致
  - スポーツコンベンションの誘致・開催、スポーツ観光プロモーション等
- イ 沖縄空手世界大会の定期開催
  - 継続開催 令和6年度 第2回少年少女世界大会  
令和8年度 第3回空手世界大会
- ウ 沖縄空手案内センターの機能強化及び受け皿となる道場の運営基盤の強化
  - 指導料金体系の見直し（適宜）、総合的な道場支援策の検討・実施

④競技力の向上

- ア 国内外での競技力向上
  - 選手強化・競技力向上に係る事業等を通じた継続的な支援等

〈将来像〉空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。  
 〈第2期の基本戦略〉【1】道場の運営基盤強化 【6】振興会の更なる基盤強化 【7】空手関連産業の創出

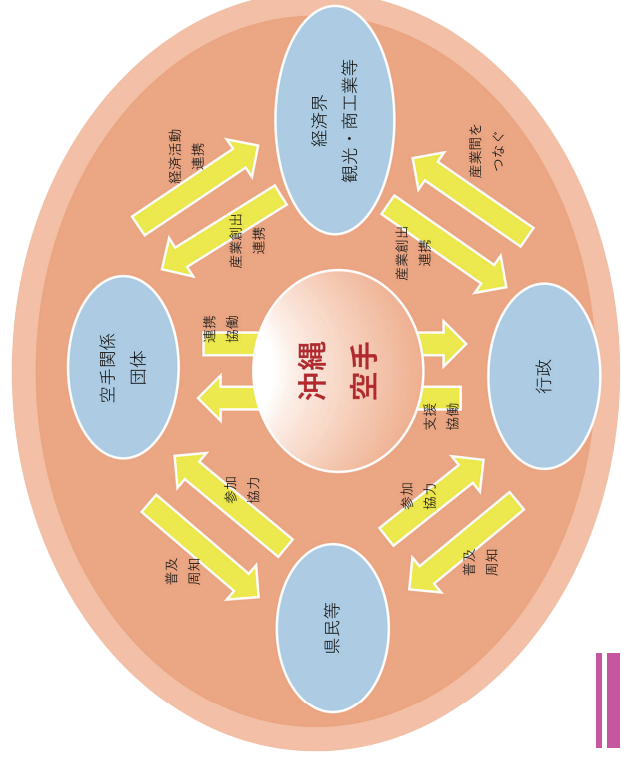
①振興発展の全体戦略

- ア ロールモデルの策定
  - 事業者のビジネスモデル検証等
- イ 空手のコンテンツを活用した取組
- ウ 国内外及び県内外での沖縄空手の披露（再掲）
- エ 国内外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催（再掲）
- オ 強力な事務局体制の構築
  - 自主事業等により振興会の基盤を強化し、総合的な道場支援へ繋げる等

②人づくり

- ア 産官学連携による空手を活用した人づくりの体系化
  - 身体的発育や人格形成への効果、エビデンス等データ収集等
- イ 空手を軸としたマーケティング戦略の構築
- ウ エンターテインメント作品の制作による人材育成
  - 空手と連携したエンターテインメント作品の制作等
- エ 来訪する外国人等に向けた空手の普及活動の推進

第2期ロードマップ 施策の推進体制



●第2期ロードマップで策定する目標達成のためには、空手関係団体をはじめ、県及び経済界等が認識を共有し、個別の施策に対して密に連携を図り戦略的に取り組むことが重要です。

●沖縄空手の「保存・継承」、「普及・啓発」、「振興・発展」を図るため、行政、空手団体、観光・商工業関係者、県民などが一体となり、戦略的に取組を推進します。

③情報通信の活用

- ア 空手に関するアプリの活用及び機能強化

①産業振興

- ア 空手ツーリズムの推進
  - 対象に合わせた空手ツーリズムを推進（空手愛好家）空手修行ツーリズム、緑の地を巡るツーリズム、合宿等（観光客・修学旅行等）空手文化ツーリズム等
- イ 平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成
- ウ ライセンシングによる権利保護と活用
  - 沖縄空手口コマークの商標登録、振興会のライセンスビジネス等の展開
- エ ロールモデルの策定（再掲）
- オ 空手家の生活基盤の安定化に向けた金融を含む多様な支援策の検討

①技及び精神性の継承

- ア 道場の運営基盤強化支援
  - 総合的な道場支援策の検討・実施
- イ 指導者及び後継者の育成
  - 指導体系書、交流稽古、伝統の継承に資するセミナー等

②沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携

- ア 振興会の組織運営基盤の強化
- イ 流派・道場間の連携促進
- ウ 道場の運営基盤強化支援（再掲）
- エ 国内外の空手愛好家への適切な指導料金体系の設定

③公認段位制度

- ア 公認段位制度の創設

④ユネスコ無形文化遺産への登録等

- ア 県指定無形文化財保持者の追加認定
- イ ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組の推進
  - 沖縄空手ユネスコ登録推進協議会を中心として、登録に向けて必要とされる提案内容を検討

⑤学術研究・体制

- ア 沖縄空手会館の博物館相当施設としての活動の充実
- イ 高等教育機関と連携した研究活動

〈将来像〉空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代に受け継がれている。〈第2期の基本戦略〉【1】道場の運営基盤強化 【2】後継者等の育成

